

# 津駅周辺の将来像

## ～バスタ構想から、まちの再編を描く～

建設政策課 ☎229-3194 ☎229-3345



名城大学 理工学部  
社会基盤デザイン工学科 教授  
松本 幸正

YUKIMASA MATSUMOTO

「人と環境にやさしい交通まちづくり」をテーマに交通・都市・まちづくりに関する研究に取り組む。令和2年度から津市地域公共交通活性化協議会会长を務めるなど、津市の地域公共交通に精通する。

国土交通省  
中部地方整備局 道路部長  
望月 拓郎

TAKURO MOCHIZUKI

平成11年旧建設省入省。道路局環境安全・防災課地域道路調整官、国土政策局広域地方政策課調整室長等の要職を歴任後、令和5年7月から現職を務める。

津市長  
前葉 泰幸  
YASUYUKI MAEBA

### Introduction



なまこ壁で親しまれた2代目駅舎が象徴的な昭和46年の津駅東口



現在のロータリーが作られつつあった昭和40年ごろの津駅西口

2年後の道路法の改訂により「バスタプロジェクト」が位置付けられたことを契機にスタートしていますが、この内容についてお聞かせください。

**新たな津駅の姿へと動き始めた駅周辺道路空間の再編事業**  
市長 津駅周辺は行政、商業、オフィスなどさまざまな都市機能が集積し、また複数の公共交通の路線が乗り入れる交通の結節点でもあります。その歴史をひもときますと、津駅は明治24年に開業。駅の東口・西口では昭和39年～56年に土地整理事業が行われ、昭和48年に現在の西口が、同

54年に東口のロータリーが完成しました。このような中、特に大きく姿を変えたのは駅の西側で、丘陵地に住宅地や文教施設が建ち並ぶようになりました。もともと東側には商業施設やオフィスがたくさんあり、駅西も同様に発展してきたわけです。

今、この津駅の西口・東口の姿を50年ぶりに変えていくと、国・県・市が話を進めています。この取り組みはちょうど5年前、令和

利用者の増加に伴う駅前広場の混雑や、東西エリアの分断などの課題が増える中、道路法改正を契機に、津駅周辺道路空間の半世紀ぶりの再編に向けて動き始めています。今回の市長対談では、中部地方整備局 望月拓郎 道路部長と名城大学 松本幸正教授に、バスタプロジェクトの構想や津駅周辺の再開発についてお話を伺いました。

津駅の開業とともに発展を遂げてきた津駅周辺エリア。

利用者の増加に伴う駅前広場の混雑や、東西エリアの分断などの課題が増える中、道路法改正を契機に、津駅周辺道路空間の半世紀ぶりの再編に向けて動き始めています。

今回の市長対談では、中部地方整備局 望月拓郎 道路部長と名城大学 松本幸正教授に、バスタプロジェクトの構想や津駅周辺の再開発についてお話を伺いました。



## 津駅周辺の 課題と将来像

## 東口駅前広場

## 西口駅前広場

## 東西の移動



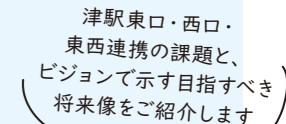
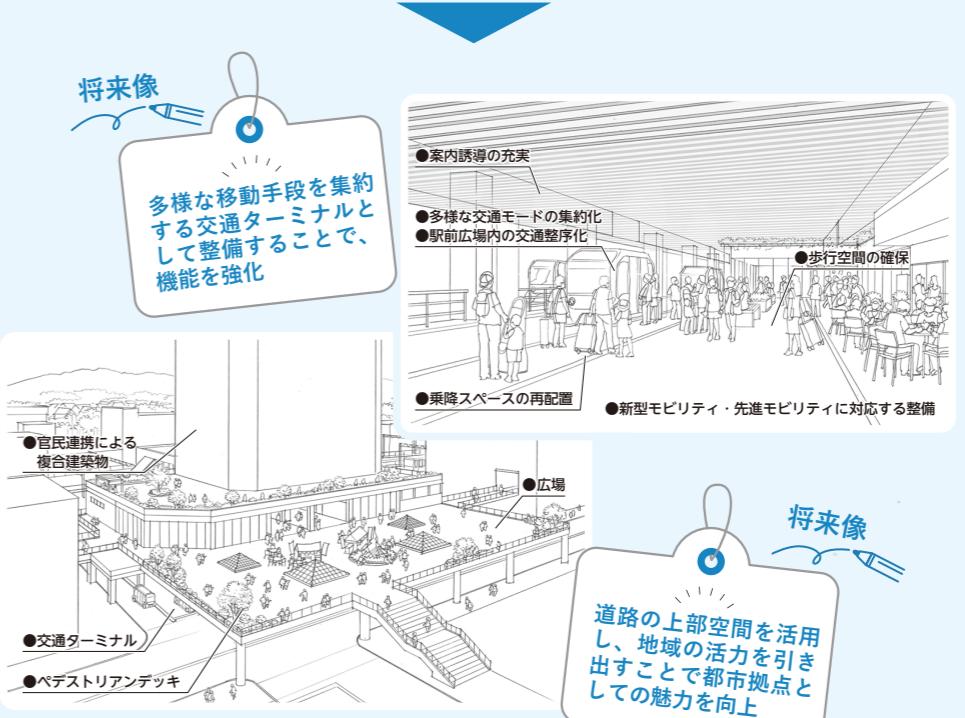
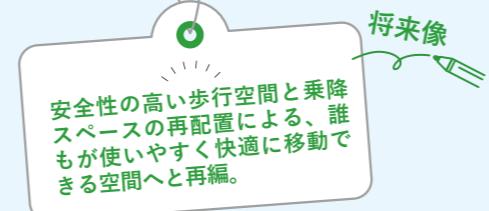
- 整備後56年が経過した歩道橋は、老朽化により通行止めに
  - 地下道が鉄道駅舎から離れた位置にあるため、乗り換えが不便



- 送迎車両の乗降場に明確なルールがなく公共交通と錯綜
  - 歩道が狭く、通勤・通学の歩行者とバス降車時の人々の流れで歩道内が混雑



- ・ロータリー内への車両の集中と送迎車両の錯綜による混雑
  - ・乗車待ちの行列と歩行者の錯綜、道路上でのバスの乗降、14力所に点在するバス乗降場



「周辺道路も含めた検討をする」「バスのネットワークを充実させる」という3つの要素が大切だと思います。そして一番大事なのは、歩行者が安心してくつろげる、歩きたくなるウォーカブルな空間づくりです。このような視点を持つて取り組むことで、快適な駅前空間になると想います。

**望月** 津駅周辺の取り組みは、これまで津市・三重県と一緒に調整ってきて、この度、津市がビジョンを取りまとめ、こんなエリアにしたいという方向性を示してくださいました。今後は、公共交通ターミナルを整備するならばどのような機能を持たせるのか、また松本先生が仰る通

活用し、例えば容積率の緩和により望ましい建物、施設誘導をコントロールすることも考えられます。全国の駅前広場の開発事例では、駅前だけを開発した場合に比べ、周辺も一体的に開発した場合の方がまことにとつて良い結果が目られています。

50年先まで使う空間として  
駅・道路・周辺エリアを  
トータルで「デザインしていく」  
市長 バスタープロジェクトを  
進めているだけ上では、まち  
とのつながりがとても大事だ  
ということですね。ちょうど  
県が「ほのみち制度(歩行者利  
便増進道路制度)」を活用した  
東口県道の歩道拡張を検討さ  
れています。市では、東西自  
由通路を整備することで東口

松本 もう一つ大事なことは、駅前だけで全てを完結させないことです。駅前に少し欠けているものがある、それがまちにあり、駅とまちがつながっていく。そんな発想を持つていただきたいと思います。オフィスが集積すれば、昼間人口が増え、昼間人口が増えればお店が集まり、周辺開発も進むという好循環にながります。そういう意味で立体化は床面積を増やす有効策だと思います。建設コストや維持管理も踏まえた上で、将来を見据えながらどんな駅さんと一緒に描いていく必要があります。



り、どのように一體的にまちづくりを行っていくのか、しっかりと市・県と連携し、地域の方々とも対話しながら進めていきたいと思います。  
**市長** ありがとうございます。  
バスタは津市にとって、国・県とお話しながら進めていく大切なプロジェクトですので、今後ともよろしくお願ひします。津市では、今年度、津駅西口駅前広場の整備に向けて設計を進め、東口については官民連携のあり方や進め方を調査する費用を予算化しています。引き続きしっかりと取り組んでまいります。

のバスタと西口をつなぐ構想があり、まだ具体的な場所は決まっていませんが、これもまちを繋ぐ大きな考え方の一つです。

東口駅前広場に目を向けますと、津市が所有する駅前広場の道路用地は約5700m<sup>2</sup>です。駅前広場全体では約7400m<sup>2</sup>ですが、平面利用としてはやや狭い感があります。今のは発想としては、津駅の道路用地にバスタを持つてくることが考えられ、もう一つの考え方として、JRさんのご意向にもよりますが、駅ビルと一緒に捉えていけば、より高い建物が建てられるということも考えられます。これはあくまでも可能性というお話しですが、バスタから駅前再編の議論が始まり、まちづくりへ展開しようとしています。このようなまちの再開発の姿について専門の見地からご助言いただけませんか。

**松本** その発想は素晴らしいと思います。古いビルはいざれ再開発しなければならない中で、この機に乗じて一体的にやれば、1プラス1が2以上になる。都市計画の手法を